

国立大学図書館協会
公立大学協会図書館協議会 各加盟館の長殿
私立大学図書館協会

大学図書館と国立情報学研究所との
連携・協力推進会議委員長
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所長

黒橋 禎夫

2025 年以降の SCOAP³ フェーズ 4 における参加機関の拠出額の算出方法について(通知)

日頃より、大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議の活動にご協力を賜わり、誠にありがとうございます。

さて、高エネルギー物理学(HEP)分野の査読付きジャーナル論文のオープンアクセスを推進する国際連携プロジェクト「SCOAP³ (Sponsoring Consortium for Open Access Publishing in Particle Physics)」は、2024 年 12 月末にフェーズ 3 (2020 年～2024 年)が終了します。

この期間におきましては、47 か国以上の国の図書館、主要な資金提供機関、研究センター等が同プロジェクトを支援し、その結果として、高品質の査読付きジャーナルの 68,500 件を超える論文のオープンアクセス出版をサポートしてきました。また、アメリカ物理学会 (APS) の 3 つのジャーナル含め、HEP 分野のジャーナル出版物の 90%をカバーするに至っています。こうしたことから、SCOAP³ 参加各国の代表者で構成される Governing Council において、2025 年～2027 年の 3 年間でフェーズ 4 として、同プロジェクトが継続される運びとなりました。

このプロジェクトの継続には、従来対象ジャーナルの購読料を支払ってきた大学図書館等からの支援が引き続き不可欠です。そこで、フェーズ 3 を踏襲したフェーズ 4 における各参加機関の拠出額の算出方法を確定しましたので、別紙の通りお知らせします。

つきましては、「参考 SCOAP³ プロジェクトに係る状況について」と併せて、フェーズ 4 における拠出額の算出方法をご確認いただきますようお願いいたします。後日事務局(国立情報学研究所)が、フェーズ 4 への参加意向確認を行いますので、フェーズ 3 にご参加いただいている機関におかれましては、引き続きフェーズ 4 への参加のご準備をいただきたく存じます。残念ながらフェーズ 3 にはご参加いただけなかった機関におかれましてはフェーズ 4 からの参加のご検討をいただきたく、予めお知らせいたします。

なお、本文書にご回答いただく必要はございませんので、念のため申し添えます。

連絡・問合せ先

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議
SCOAP³ タスクフォース事務局
国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課
電話:03-4212-2340 E-mail:scoap3_office@nii.ac.jp
担当:服部・吉野

2025 年以降の SCOAP³ フェーズ 4 における参加機関の拠出額の算出方法について

フェーズ 4(2025 年～2027 年)に参加する機関(図書館)については、原則、SCOAP³ の支援に係る拠出額を以下の方法に基づいて算出するものとする。

1. アメリカ物理学会(APS)が発行する雑誌に係る拠出額

2025 年以降における各機関の購読価格(原価)に、定められた係数(※1)を乗じて算出する。

2. 前述の APS が発行する雑誌以外(non-APS)の雑誌に係る拠出額

フェーズ 3 における各機関の拠出額(原価)に 0.82(※2)を乗じて算出する。
フェーズ 3 からの参加機関については、20 ユーロ以上の任意の金額とする。

※1 2024 年の場合は、APS-ALL=11.25% Physical Review C =8.00%
Physical Review D =54.00% Physical Review Letters =11.00% で
年ごとに係数は異なる。

※2 5.3 (フェーズ 4 のために算出された、高エネルギー物理学分野における日本の論文シェア)
÷ 6.5 (フェーズ 3 のために算出された、同分野における日本の論文シェア)

3. フェーズ 4 のスケジュール(予定)

- 12 月頃:翌年の参加意向調査
- 3 月頃:意向調査で回答のあった金額の確認(米ドル, ユーロ)
- 5 月頃:国立情報学研究所から欧州原子核研究機構(CERN)に報告(米ドル, ユーロ)
- 6-7 月頃:国立情報学研究所から CERN に支払(ユーロ)
- 7-8 月頃:円建ての請求額、請求書送付先等の確認
- 9 月頃:国立情報学研究所から参加機関に請求書発送(円)

なお、参加機関が実際に拠出する際は、国立情報学研究所が定める為替レートを用いて、円建てで支払うものとする。

(前述の算出方法を採る理由)

1, 2の算出方法ともに、拠出額の算出に用いる数値(2025 年における APS の係数及び non-APS におけるフェーズ 3 からフェーズ 4 に移る際の論文シェアの変化率)がフェーズ 3 同等かつ合理的なものであり、各機関において理解の得られやすいものと考えられるため。

以上

SCOAP³プロジェクトに係る状況について

1 SCOAP³の概要

- SCOAP³ (Sponsoring Consortium for Open Access Publishing in Particle Physics) は、CERN が主導する、高エネルギー物理学(HEP)分野の査読付き学術雑誌論文のオープンアクセスを実現する、国際連携プロジェクトです。
- 世界各国の研究助成団体や図書館がコンソーシアムを形成し、従来図書館が出版社に支払ってきた購読料を論文出版加工料(APC)に振り替えることで、HEP 分野の主要な学術雑誌のオープンアクセスを実現するものです。
- 各国に期待される拠出総額は、過去に SCOAP³プロジェクトの対象雑誌に掲載された HEP 分野の論文数の国別割合に比例して算定されており、2014 年のプロジェクト開始以降、3 年ごとに拠出額を見直すことになっています。

2 日本における支援体制

- 2007 年に CERN から各国の関連機関に「関心表明書(Expression of Interest: EoI)」の提出依頼がなされ、日本からは 2011 年に、国公立大学図書館協力委員会、高エネルギー加速器研究機構(KEK)、国立情報学研究所(NII)の連名による EoI が提出されました。2012 年には、NII が 3 者を代表して日本の National Contact Point となり、翌年には CERN との間で覚書(Memorandum of Understanding: MoU)を締結し、本プロジェクトの正式な参加国となりました。
- 2014 年のプロジェクト開始に伴い、大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議の下に「SCOAP³ タスクフォース」が設置され、国内大学図書館等の参加意向の確認や拠出額の算出方法の検討等を行っています。タスクフォースの事務局は、国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課が担っています。
- SCOAP³ プロジェクトは Governing Council(評議会)によって運営され、貢献(拠出額)に応じて各国から委員が派遣されています。日本からは KEK 及び NII から計 2 名が参画しています。

3 フェーズ 1(2014 年～2016 年)及びフェーズ 2(2017 年～2019 年)の活動

3.1 フェーズ 1 及びフェーズ 2 の概要

- 2012 年に、7 社が発行する 12 誌が本プロジェクトの対象雑誌となることが発表されましたが、2013 年になって American Physical Society (APS) が離脱することとなり、APS の 2 誌を除く 6 社 10 誌を対象雑誌として、本プロジェクトが開始となりました。
- 2018 年から APS が加わることとなり、APS の刊行する Physical Review C・D・Letters の 3 誌に掲載されている HEP 分野の論文がオープンアクセスになりました。一方で、Institute of Physics の刊行する 2 誌が本プロジェクトから外れたため、7 社 11 誌が対象雑誌となっています。
- 2018 年 12 月現在で、本プロジェクトに全世界で 43 かが参加し、2019 年 1 月には本プロジェクトによるオープンアクセス論文が、25,000 論文に達しています。また、APS の加入により、2018 年以降は世界中の HEP 分野の論文の約 90%がオープンアクセスとなりました。
- フェーズ 1 からフェーズ 2 に移行する際に、HEP 分野の論文総数の増加に比例して、各国

にフェーズ 1 の実拠出額の 2%増の拠出が求められることとなりました。

3.2 日本におけるフェーズ 1 及びフェーズ 2 の取組状況

- 本プロジェクトの対象誌を購読したことがある国内大学図書館等に対して、前述のタスクフォースが参加意向確認を行った結果、フェーズ 1 における日本の参加機関は 34 機関となりました。残念ながら 34 機関からの所定の拠出総額だけでは、日本に期待された金額の 7 割以下(不足額にすると、約 15 万ユーロ)しか拠出できていませんでした。
- アドボカシー活動としては、2016 年に CERN より本プロジェクトの担当責任者を招聘して、HEP 分野の研究者を対象としたシンポジウム(「高エネルギー物理学分野における論文投稿の仕組みを考える－SCOAP³と日本の現状－」)を開催しました。
- フェーズ 2 の開始に際して、前述のタスクフォースが国内の大学図書館等に参加意向を確認したところ、2017 年における日本の参加機関は 40 機関となりました。また、2018 年に APS が加入したことに伴い、再度大学図書館等に参加意向を確認し、2019 年 12 月現在で、参加機関は 74 機関に増加しました。しかしながらフェーズ 1 同様、日本に期待されている拠出総額には大きく達していない状況(不足額にすると、約 28 万ユーロ)に変わりなく、世界第 4 位の論文投稿国である日本の立場として、研究(者)コミュニティも含めてさらなる貢献が求められている状況です。
- アドボカシー活動として、日本物理学会誌(2017, vol.72, no.9)に広告「高エネルギー物理学分野論文のオープンアクセス拡大のために SCOAP³にご協力ください」を掲載していただいた他、2018 年には、APS が刊行する学術雑誌の購読実績があり、かつ本プロジェクトに未参加の大学等の学長相当者及び図書館長相当者に対して、本プロジェクトへの参加を依頼する文書を送付しました。
- HEP 分野の研究コミュニティからも SCOAP³を支援いただきたく、2019 年 1 月より、国立情報学研究所といくつかの大学(特に SCOAP³ 対象誌に多く論文が掲載されている研究者が所属する機関)との間で、追加拠出に向けた情報共有と検討を進めています。

4 フェーズ 3(2020 年～2024 年)の活動

- フェーズ 3 は、過去に本プロジェクトの対象雑誌に掲載された HEP 分野の論文数の国別割合を、前述の Governing Council が算出した結果、日本の論文シェアは 6.5%になりました(フェーズ 2 においては、7.1%を占めていました)。
- フェーズ 3 における国内の大学図書館等の拠出額の算出根拠を検討するため、2019 年 11 月に、大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議の下に「SCOAP³タスクフォース」を設置し、タスクフォースによる検討結果として、2019 年 12 月 11 日付けで国情研コ第 153 号「2020 年以降の SCOAP³フェーズ 3 における参加機関の拠出額の算出方法について」を通知いたしました。
- フェーズ 3 の開始に際して、前述のタスクフォースが国内の大学図書館等に参加意向を確認したところ、2020 年における日本の参加機関は 81 機関となりました。
- フェーズ 3 は当初 2020 年～2022 年を予定しておりましたが、COVID-19 の影響による高等教育・研究機関や学術出版社への財政的な影響を考慮し、このフェーズ 3 を同条件で 2 年間延長(2023 年～2024 年)することが、SCOAP³ 参加各国の代表者で構成される Governing Council にて承認されました。

- フェーズ3の延長にあたる2023～2024年はSCOAP³事務局である国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 支援チームが参加意向調査を実施し、**2024年10月現在、日本の参加機関は82機関となっています。**

5 フェーズ4(2025年～2027年)の取り組み状況

- フェーズ4は、過去に本プロジェクトの対象雑誌に掲載されたHEP分野の論文数の国別割合を、前述のGoverning Councilが算出した結果、日本の論文シェアは5.3%になりました(フェーズ3においては、6.5%を占めていました)。
- HEP分野の研究コミュニティからのSCOAP³支援についても、引き続き情報共有と検討を進めています。

6 今後の予定

- 国立情報学研究所が各機関の拠出額の取りまとめを実施後、CERNに参加機関、額について通知し、CERNから請求書(ユーロ建て)が届き、日本の分をまとめて国立情報学研究所が支払います。その後、国立情報学研究所からCERNへの支払い時のレートに従い、当該年度中に、各参加機関に対して年会費請求のご連絡を差上げます。

7 SCOAP³対象雑誌

出版社	タイトル
American Physical Society	Physical Review C Physical Review D Physical Review Letters
Elsevier	Nuclear Physics B Physics Letters B
Hindawi	Advances in High Energy Physics
IOP Publishing/Chinese Physical Society	Chinese Physics C
Jagellonian University	Acta Physica Polonica B
OUP/Physical Society of Japan	Progress of Theoretical & Experimental Physics
Springer	European Physical Journal C Journal of High Energy Physics

8 フェーズ3 国内参加機関(2024年10月現在)

北海道大学	熊本大学
室蘭工業大学	琉球大学
弘前大学	高エネルギー加速器研究機構
岩手大学	自然科学研究機構 国立天文台
東北大学	自然科学研究機構 核融合科学研究所
秋田大学	情報・システム研究機構 国立情報学研究所
山形大学	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
福島大学	理化学研究所

筑波大学	公立ほこだて未来大学
群馬大学	東京都立大学
千葉大学	横浜市立大学
東京大学	大阪公立大学
東京農工大学	千葉工業大学
東京工業大学	神奈川大学
お茶の水女子大学	東海大学
一橋大学	青山学院大学
新潟大学	北里大学
長岡技術科学大学	工学院大学
山梨大学	芝浦工業大学
信州大学	上智大学
総合研究大学院大学	成蹊大学
富山大学	中央大学
金沢大学	東京工芸大学
福井大学	東京女子大学
静岡大学	東京理科大学
名古屋大学	東邦大学
名古屋工業大学	東洋大学
三重大学	日本大学
京都大学	法政大学
京都工芸繊維大学	武蔵野大学
大阪大学	明治大学
神戸大学	明治学院大学
奈良女子大学	立教大学
北陸先端科学技術大学院大学	早稲田大学
奈良先端科学技術大学院大学	名城大学
島根大学	同志社大学
岡山大学	立命館大学
広島大学	関西大学
愛媛大学	関西学院大学
九州大学	沖縄科学技術大学院大学
九州工業大学	放送大学学園

SCOAP³の詳細については、以下のサイトも参考にしてください。

(CERN による案内) <https://scoap3.org/>

(NII による案内) <https://www.nii.ac.jp/sparc/about/international/scoap3/>